

国立病院機構東京医療センターにおける 新型コロナウイルス感染症対応

栗原 智宏[†]第75回国立病院総合医学会
(2021年10月23日～11月20日WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 6 (440-443) 2022

要旨

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、2019年12月初旬に中国の武漢市で1例目の感染者が報告されてから急速な勢いで世界中に拡大し、2020年3月11日には世界保健機関 (WHO) がパンデミックと表明した。わが国では2020年1月15日に最初の感染者が確認され、その後社会全体がさまざまな問題を突きつけられてきた。

国立病院機構東京医療センター (当院) においても、多くの問題に直面した。当初は未知の感染症に対し、どのような予防対策が必要かも不明で、N95マスクをはじめとする個人用防護具 (personal protective equipment : PPE) の不足にも直面した。また発熱や呼吸器症状を認める場合は疑似症となり、外来では診察スペース不足やゾーニングも問題となり、入院診療においても病床の再編を余儀なくされ、病床コントロールを困難なものとした。

これら問題に対し病院全体で対策を実施してきた。PPE不足の時期は、備蓄状況を常時確認しながら必要な部署に配布し使用した。救急外来は個室を増やし、重症初療室には前室を作成した。入院診療では一般病棟1つを軽症から中等症のCOVID-19用とし、高度治療室 (high care unit : HCU) の個室を重症COVID-19用に転用した。さらには重症患者増加にともない救急集中治療室 (intensive care unit : ICU) の一部を重症COVID-19用に転用した。出入りの制限がある中で人工呼吸器管理・体外式膜型人工肺装置用 (extracorporeal membrane oxygenation : ECMO) 管理を行うにあたり、病室のドアをガラス窓付きに変更し空気清浄機も設置した。さらには院内でのポリメラーゼ連鎖反応 (以下、PCR) 検査体制を整え、加えて全自動遺伝子解析装置の導入により24時間体制でPCR検査の施行が可能となった。

これら感染対策を行いながら、当院では2021年8月までに、総計901名のCOVID-19入院患者を受け入れ、うち人工呼吸器管理45名、ECMO管理11名の診療を行うことができた。

キーワード COVID-19, 感染対策, パンデミック, ゾーニング

はじめに

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、2019年12月初旬に中国の武漢市で1例目の感染者が

報告されてから急速な勢いで世界中に拡大し、2020年3月11日には世界保健機関 (WHO) がパンデミックと表明した。わが国では2020年1月15日に最初の感染者が確認され、その後社会全体がさまざまな問

国立病院機構東京医療センター 院内感染対策室, 救急科 [†]医師
著者連絡先: 栗原智宏 国立病院機構東京医療センター 院内感染対策室, 救急科
〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1

e-mail : qq.tkuri@gmail.com

(2022年3月22日受付, 2022年12月2日受理)

Infection Control for COVID-19 in NHO Tokyo Medical Center

Tomohiro Kurihara, NHO Tokyo Medical Center, Division of Infection Control and Prevention, Emergency and Critical Care Medicine

(Received Mar. 22, 2022, Accepted Dec. 2, 2022)

Key Words : COVID-19, infection control, pandemic, zoning